

1. 日 時 平成 31 年 4 月 26 日（金）午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分

2. 出席者

豊泉会長、白川副会長、和田委員、稲葉委員、小坂委員、坂本委員、太田委員、内野委員

3. あいさつ及び人事異動について

平成 31 年度の教育委員会組織体制並びに文化財係の職務分担について報告。

4. 報 告

1) 事業報告及事業予定について

事務局より資料「歴史民俗資料館・古民家園来館者数一覧」、31 年 1 月以降の事業報告資料「歴史民俗資料館・古民家園事業報告」、4 月から 7 月までの事業予定資料「歴史民俗資料館・古民家園事業予定」にそって説明。

2) 埋蔵文化財調査及び調査報告書の作成について

事務局より、資料「埋蔵文化財調査報告」と、平成 31 年 3 月刊行図書『立川市埋蔵文化財発掘調査報告書集 VI』について説明。

3) 平成 31 年度文化財保護に要する予算の概要について

事務局より、資料「平成 31 年度 文化財関係歳出予算表」にそって説明。

委 員：文化財保存団体育成補助金の保存団体は何団体の登録があるのか。

事務局：立川市獅子舞芸能保存会（市指定無形民俗文化財保持団体）、立川市砂川地区伝承民謡保存会（無形民俗文化財保持団体）、立川市西砂川松明伝承保存会（無形民俗文化財保持団体）の 3 団体である。事業活動実施に

際し補助金交付申請を行っているのは、立川市獅子舞芸能保存会、立川市西砂川松明伝承保存会の2団体になる。

4) 平成31年度歴史民俗資料館・古民家園事業計画について

事務局より、資料「歴史民俗資料館・古民家園事業計画表」にそって説明。文化財講演会や体験学習事業に審議会委員の方々に講師など協力を依頼。

5) 「阿豆佐味天神社本殿」修理工事（30年度）経過について

事務局より、資料「阿豆佐味天神社本殿修理工事 実績報告書」並びに、新たに確認された支輪板の旧塗料及び今後の復元塗装について説明。併せて、31年度事業計画について説明。

委員：旧塗料の調査及び垂木の金具周りの風触状態から推測すると、本殿は創建当初より、彩色が施され、垂木の飾り金具なども取り付けられていることが確認できた。神社側の理解も得られ、創建当初の彩色等に合わせ、復元できることになり評価したい。昨年度の審議会でも報告したが、本殿の建立時期については、使用工具の痕跡等から、棟札宝永5年（1708）や祝詞寛保元年（1742）に記載された18世紀前半と推測してきたが、塗装や金具による木材の風触具合からしても整合する。江戸時代砂川村の経済状況を窺う資料となる。刊行予定の報告書で修理、調査記録を残すことを望む。

6) 市指定有形文化財「立川氏文書」現状変更の完了について

事務局より、資料「市指定文化財現状変更等の完了届」及び、資料「修復事業委託報告書」にそって説明。併せて、完了後の実物資料をもって修理状況を確認。

7) 柴崎分水現状変更と鈴木家文書の寄託手続きについて

事務局より、歴史民俗資料館で保管する古文書等資料の保存活用の寄託手続きに関連し、市指定史跡柴崎分水の取扱いに関する意見を受けたこと等、

協議経過を説明。

委員：立川市に遺る貴重な文化財であるため、保存活用について所有者から理解協力が得られるように、引続き協議してほしい。

5. 議 題

1) 国宝「石幢」保存検討委員会について

事務局より、資料「普濟寺国宝石幢保存検討委員会規約（案）」にそって協議の経過等を説明。

事務局：保存検討委員会の設置は、普濟寺、文化庁、東京都との事前協議・指導助言を受け事業者である普濟寺が設置するもので、修理の正式な現状変更申請ならびに、文化庁、東京都からの補助金交付に関する事業計画が採択された直後より設立、活動する予定となる。地元自治体の立川市文化財保護審議会からも委員1名の委嘱依頼があり、予め候補者の選定と審議会としての内諾をいただきたく諮りたい。なお、石幢は有形文化財の考古資料に分類されるため、考古学が専門の和田 哲委員が相応しいと考えている。内諾の確認をいただきたい。

各委員：和田 哲委員を委嘱する内諾に了承。

2) 文化財指定について

事務局より、資料「文化財指定について」の関連資料にそって説明。

① 未指定文化財の現状について「五十嵐家文書など」の資料寄贈及びその内容について、実物資料により確認を行う。

事務局：古文書は軸装され、江戸時代後期に編纂された『新編武蔵風土記稿』に掲載される中世より当地に伝世する古文書として認識。また、同時期に遡る可能性を持つ短刀、槍といった刀剣類と一括して寄贈を受けた。

市指定有形文化財「立川氏文書」に次ぐ、中世に遡る年号をもつ古文書で

もあり、市指定文化財の候補として調査対象としていきたい。

委員：文書について、峰岸委員の所見のほか、所沢市史など既往調査で指摘される歴史情勢の整合性や評価、また『新編武蔵風土記稿』の宛名には三名見られるが、当資料との相違、『風土記稿』への転写元になる『武州文書』の記載内容との関係、行間や筆払いなど、年号時の文書であるか後世の写しかについても、調査資料確認を行ってほしい。

② 普濟寺寄託資料の調査では、前回審議会時の「普濟寺版経典」実物資料確認時に事務局に寄せられた専門的な意見について、関連資料を用意して説明。仏教史料や文字学の研究者等によって、多角的な研究への取り組み実績や所見について紹介。

各委員：①②の資料について、今後も市指定文化財に向けた更に詳しい調査を行うことを確認。

次回開催予定：令和元年7月26日（金）午後6時～